

グローバル COE 協賛事業

知財サロン

セミナーレポート

主催：大阪大学知的財産本部

日時：2008年2月15日

場所：大阪大学 吹田キャンパス コンベンションセンター会議室1

講師：松下電器産業(株)コーポレートR&D戦略室 室長 宮部義幸 氏

ソニー(株)技術戦略部 統括部長 武田 立 氏

トヨタ自動車(株)技術管理部 技術戦略企画室 主査 川橋 憲 氏

題目：「エレクトロニクス分野の最新動向・ニーズと知財動向」

概要：

まず宮部氏から、松下電器の研究開発拠点に関するグローバル化による日本と海外の拠点規模の変化、特に中国への進出について紹介があり、独自技術で価値創造、すなわち強い差別化技術の確立には、形式知化や知財の重要性が増しているとの松下で開発している商品を例にして指摘があった。また、単に性能が優れているだけでなく、ユニバーサルデザイン(人間研究に基づく技術)が重要、更に環境に優しい製品を目指した取り組みについても示された。



次に、武田氏から、イノベーションには、知の「創造+具現化+商業化」が必要であり、商品化につながった例をソニーの商品(トランジスタラジオ、CCD、CD プレイヤ)を例に講演が行われた。また、エレクトロニクス産業は、「もの造り」から「もの作り・もの創り」へ技術開発が移行してきており、特に内部からよりも外部からのシーズが増えてきており、オープンイノベーションが重要であるとの指摘がなされた。最後に大学に期待しない、するイノベーションの例を挙げて、講演を締めくくられた。

最後に、川橋氏から自動車産業の目指す持続可能なモビリティ社会の実現の向けての取り組み、特に自動車エレクトロニクスの進展について、その最新の研究開発動向について、車の情報通信メディアとハイブリッド自動車を主に例に挙げ、ご講演が行われた。安全性の高い環境に優しい車へ向けての取り組みの技術、特にエレクトロニクス技術の導入とその効果についてご紹介があった。

質疑応答を含め全体を通じて、「エレクトロニクス」分野をテーマとして、グローバル化とIT技術の進展と技術の多様化により、オープンイノベーションに基づく考えが重要な重要性が増しており、1人ではなく多くの人と接する中での開発が主体となっている

め、大学には、教育面では、基礎学力の更なる向上と論理的に物事を考えられる人材育成と研究面では数年先の技術ではなく、より長い期間の研究や新技術につながるシーズの発掘を期待していると締めくくられた。

企業の知財に関連している講演者からの企業の最新動向に触れる機会として、更に大学で教育研究を進めていく上での率直な企業から見た大学像を知る上で、貴重な機会を提供できた。

以上